



神宮再発見

～ 式年遷宮の年を迎えて～

尊さに皆おしあひぬ御遷宮
松尾芭蕉

(遷宮式拝観のために諸国から詰めかけた無数の人々は、
式典の尊さに打たれ、みな押しあいながら拝んだことである。)

写真提供：神宮司庁



写真提供：神宮司庁

平成25年 「式年遷宮」の年

伊勢の神宮の社殿を造り替える20年に一度の大祭です。
正殿を始め御垣内の建物全てを建て替えし、
さらに殿内の御装束や神宝を新調して、御神体を新宮へ遷します。

式年遷宮の意味

社殿を造り替えること自体はどの神社でも社殿が老朽化すれば行われるものです。しかし、式年(決まった時期)かつ国家の費用で挙行される遷宮は、唯一、伊勢の神宮のみなのです。古来、式年遷宮にかかる費用は、全国の荘園に一齐に掛けられる税金でまかなっており、このような徴収制度(一国平均役)は、大嘗祭*など朝廷の行事の時のみ適用され、それほど神宮が天皇家の守護神という意味合いを持つ重要な神殿であることが分かります。

今年で第62回を迎える式年遷宮は、最も有力な学説によると持統天皇四年(690年)に遡ることができます。戦国時代に

は100年以上、遷宮が途絶えた時代もありますが、古代飛鳥時代より連続と続けられている行事です。

遷宮を行う意味は諸説あり、神の威力を増大させるためや、木造建築の保存と技術の伝承のためでもあると言われています。また、神宮は、もともと天皇の祖先を祀る神社で、庶民の参詣は禁じられていましたが、平安中期になると国家守護の神社とみなされ、鎌倉時代には庶民も参詣するようになりました。遷宮は御木曳行事に代表されるように、まち全体を挙げての一大行事として地域住民にとって必然のものとなっていったのです。

*大嘗祭(おおいえのみつり)：天皇即位の後、初めて行う収穫祭

式年遷宮はなぜ「20年」に一度なの?

神宮の遷宮は20年に1度という式年で行われています。この「20年」の根拠は諸説ありますが、興味深い由来として天武天皇の時代に採用された「太陰太陽暦」が挙げられます。中国から伝わったこの暦法は、19年に7回うるう月を挿入し、実際の太陽の動きに合わせます。ここでは、「19」という数字が「更新」や「全てを新しく」といった重要な意味合いをもちます。この時期に初めて、19年の式年で遷宮が行われるようになりました。江戸時代になると20年に1度の遷宮となりますが、従来の人間中心の考え方ではなく、太陽への信仰、つまり神にとって重要なタイミングを選択したというのは興味深い学説です。

式年遷宮主要行事(平成25年)

行事名	年月	趣旨
杵築祭 こつきさい	平成25年 9月	新宮の御柱の根元を固める祭り。
後鎮祭 ごちんさい	平成25年 9月	新宮の竣工をよこごび、平安に守護あらんことを大宮地に坐す神に祈る祭り。
遷御 せんぎょ	平成25年10月	御神体を新宮に遷しまつる祭り。
奉幣 ほうへい	平成25年10月	遷御の翌日、新宮の大御前に勅使が幣帛(へいはく)*をたてまつる祭り。

*幣帛：神に奉獻するものの総称。狭義には布帛の類をいう。

「19」という数字が重要だったのですね



人文学部・教授
山田 雄司
Yamada, Yuji